

土砂災害への防災意識啓発
～正義の防災、あの手この手～

2020.11.7

NPO法人 土砂災害防止広報センター

山本 賢一郎

これからの
「正義」の
話をしよう
いまを Justice
生き延びる
ための哲学

Michael J. Sandel

マイケル・サンデル

鬼澤 忍=訳

早川書房

映像

- PRビデオ（3分）

9/24の日経新聞 朝刊掲載「魂の声」

- 説明ビデオ（10分）

土砂災害、土砂・洪水氾濫災害から命を守るために！

目次

- 1) 土砂災害のイメージ
- 2) 防災の知識と意識
- 3) 避難行動と行動心理
- 4) 興味喚起
- 5) 対象と手段
- 6) 防災啓発・防災教育
- 7) 雨量の認識
- 8) マイタイムライン（土砂災害）
- 9) 地区防災計画作成に向けて
- 10) 周知から理解へ



私の悩み

1) 土砂災害のイメージ

- 突然に山が崩れる
- 岩や石が落ち、土砂や木、どろ水が流れ
- 家屋がつぶれる
- 死ぬ
- 怖い
- できれば考えたくない



2) 防災の知識と意識

- 被災したことがある
- 身の危険を感じた
- 身近に災害を見た
- 被災者の体験談を聞いた
- ニュースを見た

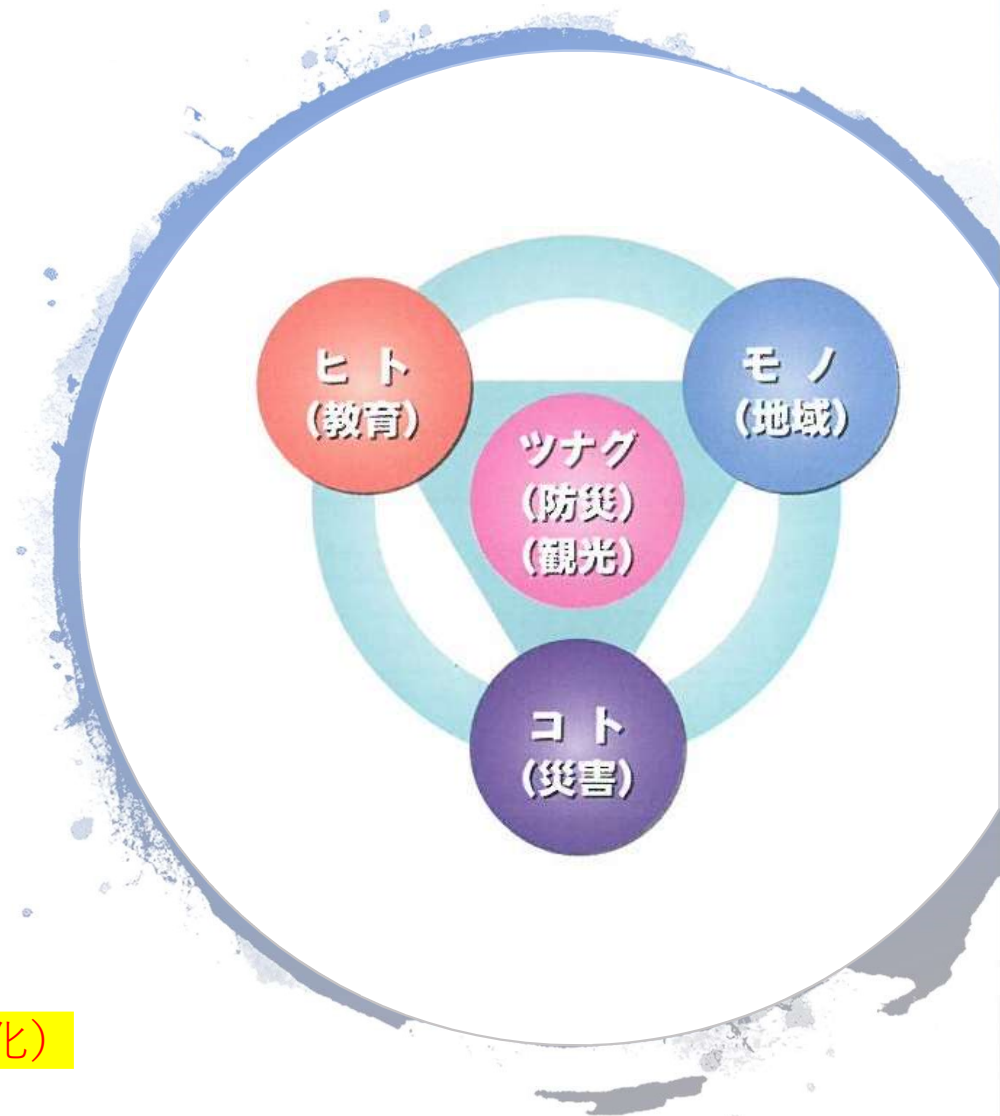


経験、知識

- 備える気持ち
- 防災知識を習得
- 実行する
- 防災力の向上へ
- 防災意識を維持



意識、営み（災害文化）



3) 避難行動と行動心理

- 避難を決めるのは誰？
- 決断の決め手は何？

- 迷いや思い込み

正常性バイアス : まだ大丈夫、きっと大丈夫
 こんなことあるはずがない

多数派同調性バイアス : ほかの人はどうしているか
 みんなが避難しないから

解決策は？ 知識と意識が、その時を決断する

- 誰を助ければよいのか？ ≡ 誰が助けられればよいのか？
- 人の命に優先順位はあるのか
- まず、自分が助かること
- 自分が助からなければ、人を助けることはできない
- 自分が助からなければ、人にも迷惑がかかる
- 助けてもらおう人だって「気持ち」は同じこと

良かれと思ってやったことはすべて

正義

4) 興味喚起

- ・防災に無関心な人たちを動かすには、どうすれば？

答え・・・・・・・・『人の気持ちをつかめばよい』

それは永遠のテーマ

広報をやってもやっても・・・・・・・・凹

だから、あの手この手で



バズらせる広報

(英) buzz : (和) ざわめき
インターネット上でソーシャルメディアを使って短期間に爆発的に話題が広がり、注目を集め、巷をざわつかせる
『人の気持ちをつかめばよい』

これまでの広報手法

- イベント：防災訓練、学校等に出前講座、シンポジウム、セミナー、展示会、地域お祭り
- 映像： 警戒避難啓発、砂防事業、地域の災害文化
- 趣味： マニア（砂防ダムカード）、観光（砂防インフラツーリズム）
- 体験： 実演模型（土砂災害と砂防）、体験装置（降雨、地震、3D映像）、防災カルタ、防災体操
- 資料： 砂防副読本
- 報道： テレビに出る

ウィズコロナ・・・いまだに人が集まる、集めることが難しい

これからの広報手法 → → 従来型広報との融合（対面と会話は大切：コミュニケーション）

- イベント：オンラインで広域に不特定多数
- 動画： 自主撮影・編集、ドローン活用、VRやCG、4K～8K映像、5G通信
- アプリ： ドシャボウ、ゲーム感覚
- お笑い： キャラクターショー
- オタク： 巻き込む、発信力
- SNS： YouTube、Facebook、Twitter、Instagram、TikTok

親しみやすく

バズる



5) 対象と手段

1) 誰に

生産年齢層、学生や児童、高齢者、要配慮者、性別、職別、etc

2) 何を

警戒避難、災害の種類、予防対策、復旧・復興対策、応急、etc

3) どのように

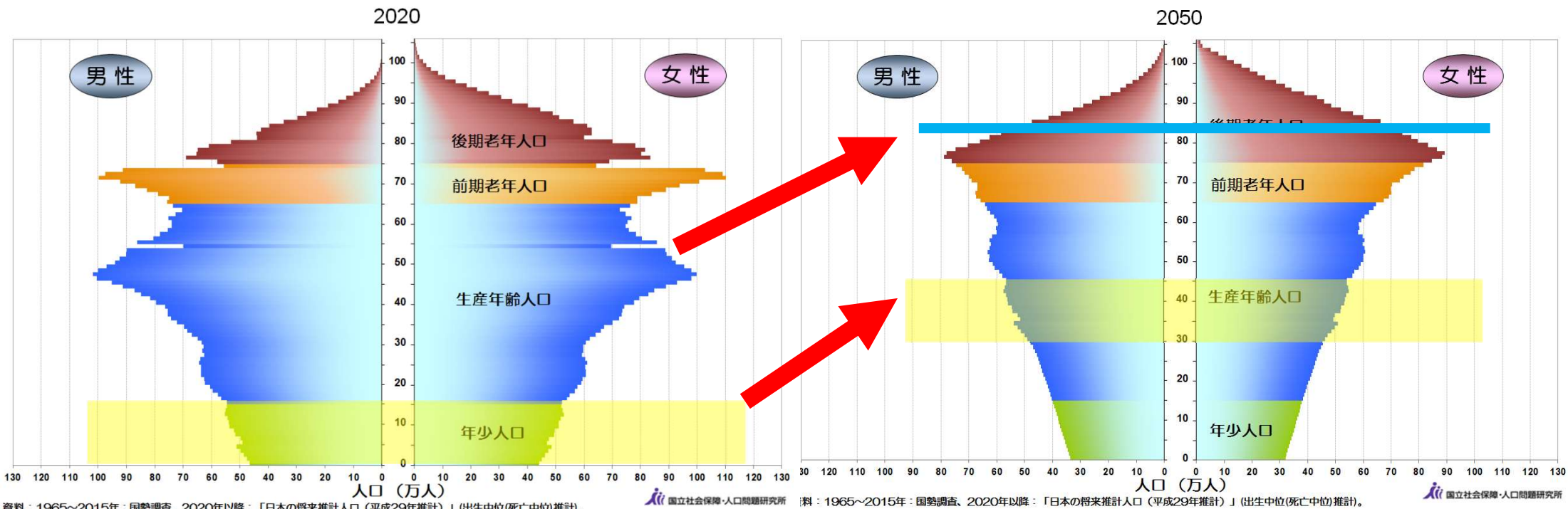
防災士資格、防災訓練、防災イベントやSNS発信、etc

6) 防災啓発・防災教育

誰に防災を啓発するのが有効か？

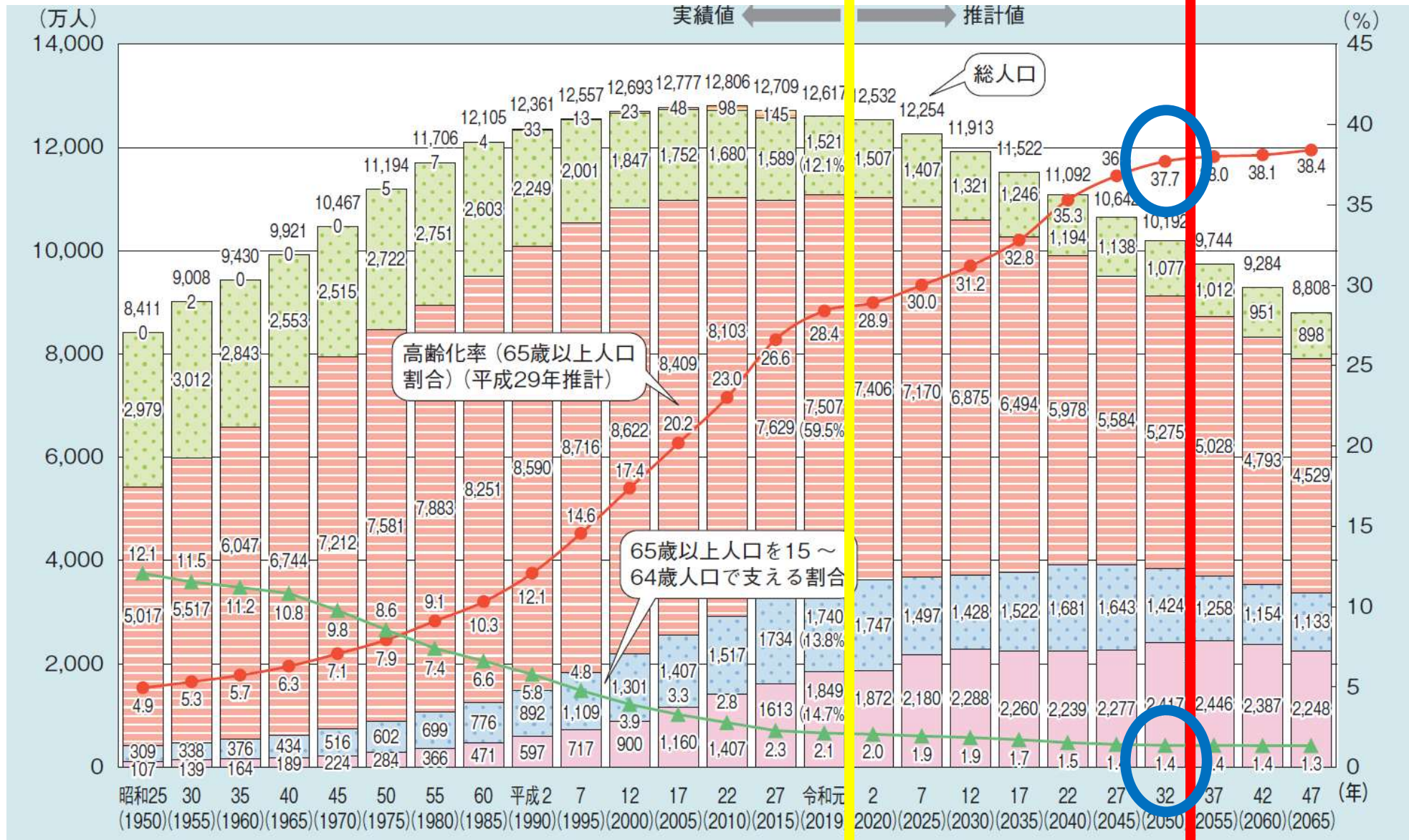
- 生産年齢層は仕事や家事で忙しい
- 少子化、高齢化の人口構造
- 防災士会の年齢分布：**50～70歳 82%**
→→ **シニアがガンバル！**
- 小中学生への防災教育
→→ **30年後の君たちに期待！**





1億2,532万人

1億0,192万人



7) 雨量の認識

気象庁

- レーダー観測 20か所
- 雨量計観測 1300か所（アメダス 17km～21km間隔）

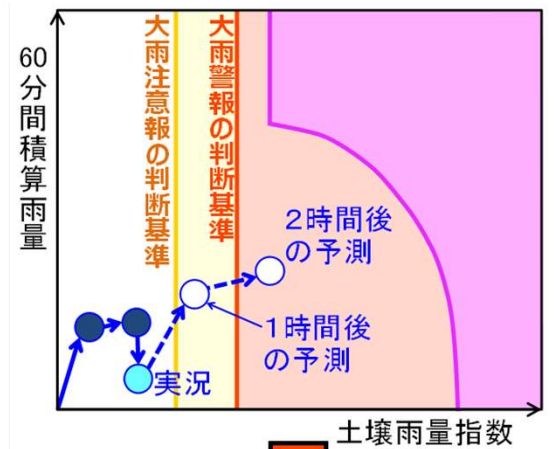
- 天気予報では

「1時間に80ミリの雨が降りました」

「今後の予想降水量は24時間で多い所で300ミリ」など

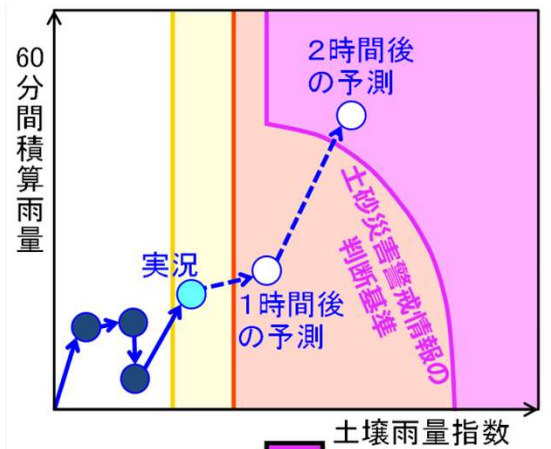
と聞きますがイメージできますか？

1時間雨量 (mm)	2 分間	1 0 分間	2 0 分間	3 0 分間	予報用語	人の受けるイメージ
10～20	0.3～0.6	1.6～3.3	3.3～6.6	5.0～10.0	やや強い雨	ザーザーと降る
20～30	0.6～1.0	3.3～5.0	6.6～10.0	10.0～15.0	強い雨	どしゃ降り
30～50	1.0～1.6	5.0～8.3	10.0～16.6	15.0～25.0	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る
50～80	1.6～2.6	8.3～13.3	16.6～26.3	25.0～40.0	非常に激しい雨	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）
80～	2.6～	13.3～	26.6～	40.0～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じず



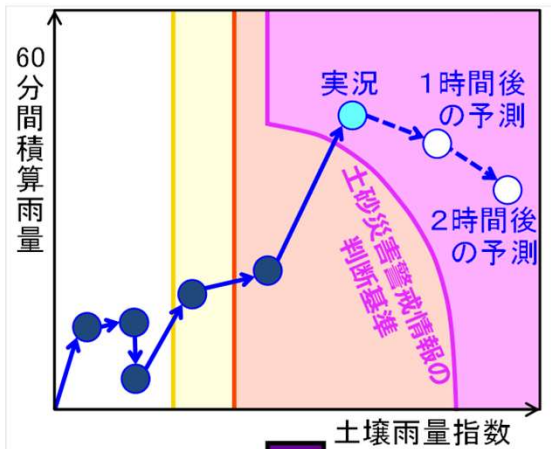
**2時間先までに
大雨警報(土砂災害)の
基準に到達すると予測**

**大雨警報(土砂災害)発表
高齢者等は避難開始**



**2時間先までに
土砂災害警戒情報の
基準に到達すると予測**

**土砂災害警戒情報発表
避難開始**



**すでに
土砂災害警戒情報の
基準に到達**

**この段階までに
避難完了**

8) マイタイムライン (土砂災害)

避難情報	警戒情報	だれ	自分	家族1	家族2	小さい子供	高齢者1	要支援者 など
		いつ	どこで(に)・なにを・どのような(に)					
避難準備・ 高齢者等 避難開始	大雨警報	00:00	会社	パート先	学校	託児所	自宅	ケアセンター
		00:00						帰宅
		00:00		帰宅	帰宅			
		記録的 短時間 雨量情報	00:00	帰宅				
避難勧告	土砂災害 警戒情報	00:00						
		00:00						
		00:00						
		00:00						
		00:00						
避難指示 (緊急)	大雨特別 警報	00:00						
		00:00						
		00:00						
		00:00						
			土砂災害発生!					
			※土砂災害は降雨の状況にかかわらずいつ発生するかわかりません					

早目の避難

全員避難

たとえば、「3日後の〇時に自分の住む地域を台風が直撃する」と想定します。そして、台風直撃の時間には家族全員が安全な場所に避難しているようにするためには、いつまでにだれが何をしておかなければならないのか、考えてください。非常持ち出し袋の中身をそろえたり、避難するときの靴や雨具を準備したり、お年寄りを先に避難させたりするのは、いつまでにだれがしておくのか、さらに、どんな状態になったら家族全員避難するか、時系列で表にしてみましょう。

9) 地区防災計画作成に向けて

①平常時	②災害警戒時	③応急対策時	④復旧・復興時
<ul style="list-style-type: none"> • 防災訓練、避難訓練 (情報収集・共有・伝達訓練を含む) • 活動体制の整備 • 連絡体制の整備 • 防災マップの作成 • 避難路の確認 • 指定緊急避難場所、指定避難所等の確認 • 要配慮者の保護等地域で大切なことの整理 • 食料等の備蓄 • 救助技術の取得 • 防災教育等の普及啓発活動 	<ul style="list-style-type: none"> • 情報収集・共有・伝達 • 連絡体制の整備 • 状況把握(見回り・住民の所在確認等) • 防災気象情報の確認 • 避難判断、避難行動等 	<ul style="list-style-type: none"> • 身の安全の確保 • 出火防止、初期消火 • 住民間の助け合い • 救出及び救助 • 率先避難、避難誘導、避難の支援 • 情報収集・共有・伝達 • 物資の仕分け・炊き出し • 避難所運営、在宅避難者への支援 	<ul style="list-style-type: none"> • 被災者に対する地域コミュニティ全体での支援 • 行政関係者、学識経験者等が連携し、地域の理解を得て速やかな復旧・復興活動を促進
<ul style="list-style-type: none"> • 消防団、各種地域団体、ボランティア等との連携 			

私が考える「平常時に考えておくべきこと15選」

- 平常時に、避難先までの計画準備を考える
- 快適避難生活のために必要なモノを整える
- 緊急時に最低限必要なモノを探し集める
- 地区の強みと弱みを把握する
- 防災人材を発掘し、趣味や職業（現在・元）経験での「得意」を活用する
- 実行力のある自主防災組織に改編する
- 避難行動要配慮者の名簿作成に着手する
- 社協、警察、消防、病院、学校、遊興施設と連携する
- 危険な場所、安全な場所、早期避難と緊急時一次避難の場所を探す
- 避難マップを作成する
- 連絡網の再確認、避難誘導人員を担当化する
- 備蓄倉庫の内容と使用方法を確認、共有する
- 指定避難所、避難場所、一次避難施設の利用ルールを決める
- 地区の決定をまとめる
- 実行予算（補助金等）は役場や企業と連携

実際にあった地域のホンネ

- 地域内の派閥；自治会、PTA、父母会、敬老会、青年団・・・
 - 上下関係、先輩後輩関係
 - 支持政党や選出者の違い
 - 近所付き合いの疎遠
 - 人の好き嫌い、相性の違い
 - 情報弱者、携帯電話を持たない高齢者等との付き合い方
 - 保険に未加入、被災後の悲惨
 - 教育や経済の個人格差の存在
- 災害前は生活が優先され > 災害直後は命が優先になる ≠ 防災ならず

誰が防災を「考え」て「実行」するの？・・・・・・防災リーダーって誰？

結論・・・・・・一人ひとりの意識を高めるしかない

10) 周知から理解へ

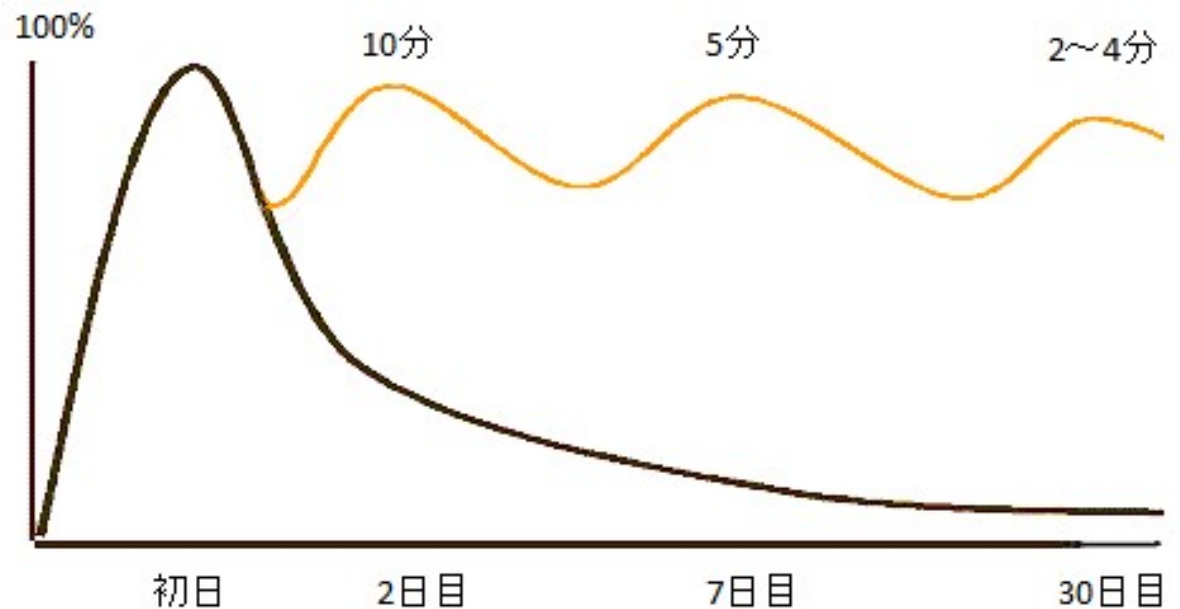
- 知らせる努力・知る努力

⇒⇒理解させる努力・理解する努力

知識⇒意識⇒理解⇒守備⇒危険察知⇒避難行動

- 学ぶ⇒⇒すぐ忘れる

- 繰り返し繰り返し⇒⇒⇒



私の悩み

- 防災意識を高める手段の実行
 - ・雨量の理解促進活動（インフルエンサーに・サキモリの普及）
 - ・キャラクターを活用した無関心層へのSNSアプローチ
- 人口減少と地域防災力の低下・・・阻止できない
- 自治会長や区長の重責と個人差・・・個人
- 自主防災組織の実務活動の困難・・・組織
- 災害弱者（要配慮者、外国人）、情報弱者への防災対応
- 企業の防災活動・・・生産年齢層はここで活躍
 - BCP（事業継続計画）をCSR（地域への社会貢献）につなげることで
 - SDGs（社会の持続可能性）への道を拓く

解決策は？ コミュニティ防災でコンパクトシティ化

最後に

儒教の徳目「五常」

仁 思いやり
義 利欲なく実行
礼 人を守る
智 知識を得る
信 誠実さ

・・・・防災士（会）への期待は大きい

～正義の防災、あの手この手～の巻

つづく、
かな？

叱咤激励、リクエスト

メールで(^0^)

yamamoto@sabopc.or.jp